

### (1) 実践内容

笠井中学校英語科では、4技能を統合した実践として、「基本文トレーニング」「AAA」「借文」「LIME」という方法を用いて活動を行っている。また、新出文法を正しく用いることで、コミュニケーションのための文法学習とすることができるように、「New Grammar」と「意味順」という活動を行っている。いずれの活動も準備が簡単で、生徒が意欲的に活動に取り組むことができ、自分自身の成長を実感することができるものである。

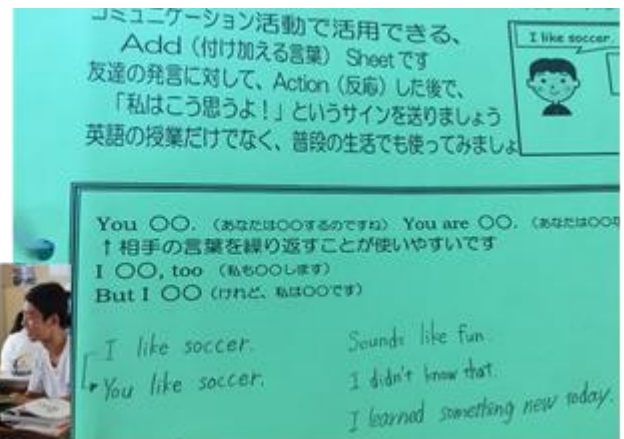
#### 1. 基本文トレーニング（話す+聞く）

授業の導入で行う、warm-upのペア活動。1人が日本語を言い、相手はその日本語を聞き取って、それを英語にする。新出文法や重要表現を何度も繰り返すことで、自然に使うことができることをねらいとしている。

#### 2. AAA（読む+話す、書く、聞く）

コミュニケーション活動において、やりとりを続けることができるように、相手の発言に対して、3つのA（Action 反応、Add 付け加え、Ask 質問）を行う。

Lesson 終了時に教科書本文からAAAとして使えそうな表現をまとめて、AAA Sheetsに書き出しておき、コミュニケーション活動で活用する。



#### 3. 借文（読む+書く、読む+話す）

作文、会話活動や単元のまとめのスピーチ原稿を作成する際に、効果的な方法。教科書の文から自分が伝えたいことに近い文を探し出し、その文全体や一部を「借りて」「作文」をする。特に峻出文法に関するものについては、Lesson 終了時にワークシートにまとめ、借文リストを作成しておく。

#### 4. LIME（書く・話す+読む・聞く）

生徒が日頃のコミュニケーションツールとして使っている、LINEにヒントを得た活動。

3～4人で班を作り、それぞれが異なる色の付箋紙に、質問や自分の意見を書き、それを読み上げながらA3用紙に貼る、それに対して他の班員は、既出のAAAを活用し、会話を続けていく。

会話では音声として消えてしまうことも、書くことによって後で間違いを訂正できたり、生徒がどのような英語を使ったかを自分たちで客観的に見直したりすることができる。教師としても、生徒がどのくらい英語を使えているかやどのような場面で間違いが起きているかを捉えることができる。



## 5. New Grammar

新出文法について、教科書、副教材、参考書、インターネットなどを使い、自分でまとめたものを他の生徒に伝える活動。既習事項との関連性や相違点、どのような場面で使われるかなどをまとめ、それを活用しながら、文法を定着させる学習やコミュニケーション活動を進めている。

「to + 動詞の原形」で「～するために」という意味を表す。

I came here to talk with a lot of people.  
(私は多くの人々を話すためにここに来ました。)

◇ 「to+動詞の原形」 ◇ 意味「～するために」

「～する」は…する  
I came here.  
(私はここにきました)

何のために?  
(目的)

「～するために」  
to talk with  
a lot of  
people.

● 「～すること」と「～するために」の違い!  
I came here to talk with a lot of people.  
後方に「目的」を対する。

「～すること」⇒「～すること」の「to+動詞の原形」は、動詞の直後にくる。

「～するために」⇒「～するために」の「to+動詞の原形」は、ある程度は本文の後にくる。

同じ「to+動詞の原形」だけと意味・位置が違う!

## 6. 意味順

英語と日本語の語順は異なっており、語順のミスにより、意味の通じない英語になってしまうことが多くある。そこで、新出文法を意味順で確認して理解することにより、基本的な英語の構造を学習している。

### 意味順の基本パターン

Question など	だれが	する・＝	だれ	なに	どこ	いつ	どの ように
	I	am	a boy.				
	I	didn't study		English	at home	last night.	
Can	you	play		tennis?			
	Tom	went			to London		to study English
	I	have	a friend				
	who	lives			in Tokyo.		

## (2) 実践内容

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい文法を使って、英語で表現できるようになった。</li> <li>どのように相手とかかわればよいかが明確になり、自信をもってコミュニケーション活動に取り組むようになった。</li> <li>やりとりの内容が深まり、さらに英語を使おうとする意欲が向上した。</li> <li>自分たちで調べたことを説明し合うことで、主体性だけでなく、理解度も高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の外国語活動では話すことや聞くことに慣れ親しんできたが、書くことに対する苦手意識が高く、スペルや語順のミスが多く見られる。</li> <li>パターンはあるが、それだけになってしまっており、自分の考えを十分に伝えきれないことが見られる。</li> <li>目的をもって英語を使うことや、4技能を統合させていくことが必要。</li> </ul>

